ŌMIYA NEWS
No.164　2024年3月25日　JR東労組大宮地本

2024JR総連春闘を職場から創りだしてきた団結力を基に、職場の努力に報いることなく、格差を助長する経営姿勢に立ち向かう大宮地本見解

JR東労組大宮地本は、2024JR総連春闘を統一要求・統一闘争で職場からたたかいを創りだす意思統一を行い、職場集会・座談会・総対話を積み上げ、「一律ベア12，000円引き上げ」を柱とした要求実現のたたかいを全組合員と共に創りだしてきた。「3・5大宮地本春闘総決起集会」には、420名の仲間が結集し、団結を打ち固めてきた。改めてこの間の全職場からのたたかいに感謝を申し上げる。

中央本部は3月8日、「2024年度賃金引き上げ」と「2024年度夏季手当」の申し入れの第3回交渉において、定期昇給（昇給係数4）の実施、所定昇給額と同一の額及び4，000円を加える基本給改定の実施、基本賃金に6，000円を加えるエルダー社員の賃金改定の実施、夏季手当については、基準内賃金の2．7ヶ月などの早期回答を受けた。

職場からは「早期回答にも関わらずなぜ満額ではないのか」「回答が分かりづらい」「ベアの格差はおかしい」「労働実感に見合っていない」等の不満の声が出された。私たちは「回答書」と「令和6年度新賃金・夏季手当のポイント」を使い、会社の定期昇給とベアと処遇改善を一緒にした、賃金引き上げの欺瞞性を明らかにしてきた。

大宮地本として会社回答を受けてから短期間で組合員をはじめ、未加入者からも400件近くの声を集約し、90％の組合員・未加入者から「ベア満額でも足りない」「物価上昇は誰もが一緒なのにベアに格差があるのはおかしい」「他の大手企業は満額以上出している」「再申し入れするべき」等、怒りや不満の声が上がった。更に、夏季手当に至っては99％が「納得できない」という現実である。そして「法人税減税の恩恵を受けるギリギリの5．01％の賃上げ」や、夏季手当2．7ヶ月に対し「ベア等による基準内賃金の増加により0．13ヶ月相当の押上げ効果が生じ、2．83ヶ月と同等の支給水準」と発表し、誤魔化す姿勢に、多くの組合員や未加入者が怒りを通り越して呆れかえっている。

その一方で、社友会は、会社資料の「令和6年度新賃金・夏季手当のポイント」を丸写しの情報をコミュニケーションボードに掲出し、「私たちの意見はしっかりと考慮していただいたものと受け止めている」「新賃金と夏季手当が同時公表となりましたので生活設計に役立てていきましょう」と主張している。しかし、職場での社友会の実態は、会員の意見集約については殆どおこなわれていない。この事実から社友会とは「私たち働く者にとっては全く意味のない、会社の代弁者集団」ではないか。今後も継続して、心ある社友会会員のJR東労組への結集を呼び掛けていく。

緊急再申し入れ以降、各職場で常駐・総対話を行い、「要求満額」を勝ち取るために、中央本部と共に奮闘してきた。交渉の中で会社は「職場の声を受け止める」としながらも「再考はしない、最終回答である」と述べ、ベアの格差については「職責は重要な要素ということから鑑みて合理的な格差である」と回答した。ここまで職責を重視するJR東日本の姿勢には、JR東海で新たに提案された「定期昇給に評価が組み込まれた『人事・賃金制度の見直し』と同様の仕組みが目論まれている」と危機感を持たなければならない。

私たちは新たな施策の5本柱にある、「年功賃金の廃止反対！手当・定昇カットなど生涯賃金の減額反対！更なる成果主義型への変更を許さずたたかおう！」のスローガンを基軸に、安全を第一とした安心して働きやすい職場を創り出すために、成果主義型賃金導入を許さないたたかいを創りだしていく！そして、再申し入れ交渉における要求の前進は勝ち取れなかったが、「過去最大のベアに対し、最大の格差ベアは容認できない！」という職場の声が象徴しているように、働く者の苦労に報いることなく、現実を顧みない経営陣に対し、今後も継続して「おかしいことはおかしい」と主張し、立ち向かっていく。

引き続き、JRバス関東本部・JRバス東北本部・ステーションサービス協議会の仲間と共に要求実現に向けて連帯し、たたかい抜いていく。大宮地本は24春闘のたたかいの中で4名の組織拡大を実現し、大きな成果を確認している。組織は確実に強化されている！更なる組織拡大を職場から全ての組合員と共に創りだしていくことを述べて見解とする。

２０２４年３月２５日
東日本旅客鉄道労働組合
大宮地方本部執行委員会